

## 原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：平成29年7月7日（金）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：松浦長官官房総務課長

### <本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから原子力規制庁の定例ブリーフィングを始めます。

○松浦総務課長 それでは、皆様のお手元の広報日程に基づきまして、私の方から補足説明をさせていただきます。

まず、1ページ目、2.、7月7日金曜日、本日の（2）番目、主要原子力施設設置者の原子力部門の責任者との意見交換会でございます。これにつきましては、先日の私のブリーフィングで詳細を説明しましたが、議題が1つ追加されておりまして、議題の1番目に「HEAF火災への対応等」と書いてありますけれども、いわゆる高エネルギーアーク火災対策につきまして、事業者との意見交換会を事務方でやっておりますけれども、これを踏まえまして、この原子力部門の責任者との意見交換会においても、改めてHEAF火災への対応について意見交換をしたいと考えております。

続きまして、2ページ目下段になります。7月12日水曜日、（6）番でございます。平成29年度の原子力規制委員会行政事業レビューに係る有識者会合でございます。こちらは原子力規制委員会の20事業につきまして、有識者の方をお招きして、いわゆる行政事業レビュープロセスに乗せて、我々の予算執行事業につきまして御意見を承る予定でございます。

続きまして、3ページ目、7月13日木曜日、（8）番の審査会合でございます。

議題は2つございまして、まず、東京電力・柏崎刈羽発電所6号機、7号機につきまして、補正申請書の改定につきまして東京電力の方から説明がある予定でございます。

引き続き、議題の2番目といたしましては、日本原電の東海第二発電所につきまして、防潮堤について日本原電の方からお話を伺う予定でございます。

最後になりますけれども、7月14日金曜日、（9）番の審査会合でございます。特重施設の審査のため非公開とさせていただきますが、敷地内の地質について、コメント回答を四国電力の方から伺う予定でございます。

私の方からは以上です。

### <質疑応答>

○司会 それでは、いつものとおり、所属とお名前をおっしゃってから質問の方をお願い

します。

それでは、質問のある方は手を挙げてください。いかがでしょうか。ヨシノさん。

○記者 テレビ朝日、ヨシノです。

来週月曜日の臨時会で東京電力の新会長、社長を呼んでお話を聞くということですが、前の田中委員長の会見では、原子力事業者としての基本的な姿勢をただすというふうなお話がありましたが、それ以外に聞かれることというのは、いくつかポイントがありましたら教えてください。

○松浦総務課長 前に会見で複数回にわたって委員長も申し上げておりますけれども、まずはやはり原子力事業者としての基本的姿勢。それはなぜかと申し上げますと、東京電力は、当然、福島第一発電所の事故の当事者だということ、そういった意味での基本的姿勢を新しいマネジメントの方と原子力規制委員会の委員の間で議論をしたいということがまず第1点。

そのほか、これも委員長も申し上げておることですが、当然、今申し上げました福島事故の今後の対応について、いろいろな論点はございます。汚染水もありますし、廃棄物の問題もございますので、そういった点についても、当然、意見交換されると思いますし、また、現在審査中でございますけれども、柏崎刈羽の6号機、7号機についても意見交換されると思います。

○記者 ありがとうございます。

○司会 ほかに質問はありますか。

○記者 共同通信のナガイです。

12日の水曜日の定例会合、これに大洗の被ばく事故の報告とかというのは入ってきそうでしょうか。

○松浦総務課長 大洗の被ばく事故については、今週の規制委員会で立検についてまとめて報告いたしました。当然、新しい何か進展があれば12日に委員会で報告するというところでございますけれども、今のところ私が聞いている限りでは、何か新しい事象が発生したということも聞きませんし、そういった意味では、今週の水曜日にあったJAEAの報告書を待って、また我々としての評価、対応を考えていくと、そんな段取りになると思っております。

○司会 ほかに質問はありますか。よろしいでしょうか。

それでは、ただいまをもちまして本日のブリーフィングを終わりたいと思います。お疲れさまでした。